『ぼくは本を読んでいる』 を読んで

ルカが、本の主人公と自分をくらべる所の考えが

なるほどと思ったし、

たくさん話が分けられているから、読みやすい！！

ひまり

『ぼくは本を読んでいる。』 を読んで

本当の世界と主人公が読んでいるお話の世界の 2 つが出てきて、
直接ではないけれどつながっているのが面白いとおもいました。
主人公の男の子の考えていることや思いが
「」や () 無しで書いてあって新鮮に伝わってきました。
親に隠れてこっそり本を読んでいる (主人公) なのでスリル感もあります。

ももえ

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』　を読んで

おばあちゃんが認知症だということをみとめて、

「私を忘れてもいいよ」と思えたのがすごいと思いました。

読書感想文におすすめ！

（私もこの本で書くつもりです）

あんな

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』 を読んで

私は「認知症」という言葉を初めて聞きました。

おばあちゃんは認知症で、辰子の名前も覚えていなかったのに、

回線がつながって、スラスラと話していたところにとてもびっくりしました。

家族のいろいろなたくさんの思い出がつまった本で、

とても心に残るお話でいいなと思いました。

なつき

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』　を読んで

もう亡くなってしまったけれど、

私のおじいちゃんも認知症でした。

このおばあちゃんと同じように、無意識に何度も

聞いてしまうのが悲しいと思っていたなら、

マイナスじゃなくて、もっとプラスにたくさんいい所をほめて、

大切にしてあげればよかったと思いました。

りえ

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』　を読んで

私はこの本を読んで、ある言葉を言うと、認知症のおばあちゃんの
回線がつながるということや、主人公の辰子の今まで知らなかった
名前の意味を知った時は、本当にびっくりしました。
また、自分のおばあちゃんやおじいちゃんが
認知症になってしまったらどうしようと心配にもなりました。

かな

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』 を読んで

認知症の方が僕の身近にいないので、実感がわかない。

でも、万が一、認知症なった時には、

色々考えて、できるだけのことをしてあげたい。

そのために、今のうちに、おじいちゃんおばあちゃんの

好きなもの、ワクワクするものをたくさん見つけておきたいと思った。

たくま

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』　を読んで

私のおばあちゃんは認知症ではありません。
だからタツコちゃんの気持ちがよくわからないけど、ユミちゃんの
おじいちゃんが死んでしまった時、自分の身近な人が死んでしまうことは
とても辛いことなんだろうなと思いました。
私のおばあちゃんも、今よりももっと歳をとったら
認知症になっていくかもしれないけど、（なってほしくないけど）、
もしそうなってしまったら少しでも一緒にいられる時を楽しみたいと思いました。

ななえ

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』　を読んで

私にも認知症のおばあちゃんがいます。この本に出合う前は
自分の事を忘れてほしくなくて、なんとか覚えてもらおうとしていました。
すぐに忘れちゃうとイライラして、なんで？といつも思っていました。
でも、このお話を読んで忘れたくて忘れているわけじゃないし、
一緒に過ごせるのも限りがあるということを知りました。
何でも知っていてよく笑っていたおばあちゃん。
一瞬一瞬を楽しんで、心に刻みたいです。

ももえ

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』 を読んで

わたしにもおばあちゃんがいるけれど、

おばあちゃんに「忘れてもいいよ」なんて言えないと思いました。

主人公は、おばあちゃんのことを

本当に考えてあげていたんだなと感じました。

なお

『おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ』　を読んで

一番心に残ったことは、げん次ろうおじさんのむす子・のりゆきさんに
家元をつがせようとしているところを、
おばあちゃんが止めたことです。
理由は、回線がつながっていたし、とてもたのもしかったからです。
とても感動するお話でした。

こと

『モノ・ジョーンズとからくり本屋』　を読んで

モノの観察力と推理がすごいと思いました。

モノのきらいな「リコリスキャンディ」が

事件のカギになるなんて

びっくりしました。

最後のにせ本にラクガキしたところがおもしろかったです。

あんな

『モノ・ジョーンズとからくり本屋』　を読んで

私はモノ・ジョーンズとからくり本屋を読んで、モノがからくり本屋の部屋に閉じ込められて、どのくらい深いかわからないところを渡っていく場面では、本当にドキドキしました。このあとにモノのお母さんのネティがサインするのを止められなかった時は、もし自分がモノだったら、目の前が真っ暗になったと思います。でも、モノが思いついた計画で、悪いやつをこてんぱんにした時は、気持ちがスッキリして、とてもおもしろい本だと思いました。

かな

『チギータ!』 を読んで

一人では立ち向かえないことも、二人三人といると

大きな力になることを感じた。

みんなでする卓球、結構いいなと思った。

たくま

『チギータ!』 を読んで

最後の場面で、主人公がクラスの中であまりやりたい人が
いなかった卓球も、楽しいよとみんなに一生懸命伝えようとしている
気持ちがすごく伝わってきた。
わたしもやったことないことは、あまりやりたくないと思ってしまうけど、
いろんな遊びをしようと思った。

なお

『おれんち、動物病院』を読んで

勇希の父はとても情け深い人だ。その父の姿を見て、

勇希は動物が「きらい」から「すき」に変わっていったのだと思う。

もしも自分が動物を飼って病気になったら、こんな病院に預けたいと思った。

また、自分も動物を飼ってみたくなった。そう思わせてくれる一冊。

たくま

『おれんち、動物病院』　を読んで

本を読み進めていくうちに「おれ」の心情が移り変わっていくのが

よく分かってスイスイ読みました。

個性的な登場人物が多く、挿絵も面白いです。

このお話はただ面白いだけでなく、複線が張られていて、

小学校中学年から高学年の子も飽きずに読めます。

ももえ

『ぼくがいちばんききたいことは』　を読んで

短いお話がたくさん入っている本で、どのお話も

（私が女の子だから）男の子の目線で書かれているのが新鮮でした。

複雑な関係の登場人物たちが会話をしたり、

一緒に行動したりするところがおもしろかったです。

ももえ

『しずかな魔女』 を読んで

私はこの本を読んで、不登校の女の子が図書館の女の人にもらった
原こうの束を読んで、この話を本にすると決心したところでは、
私も本を作ってみたいという気持ちになりました。
また、その原こうの束に書かれていた話が実際にあった話だと
知ったときにはとても驚きました。

かな

『しずかな魔女』 を読んで

図書館で働く人たちのやさしさやあたたかさが

伝わってくる作品でした。

みき

『しずかな魔女』 を読んで

私は、「しずかな魔女」というお話を読んで、

とてもおもしろい話だと思いました。

「しずかな魔女」は、お話の中にお話がありました。

そのお話の中のお話で、とっても心を打たれる場面があり、

好きな本になりました。また読みたいです。

ななえ

『しずかな魔女』 を読んで

私は「魔女」と聞くと魔法を使って、空を飛んで、と一般の人にはできないような
ワンダフルな事をするというイメージが強く、とてもあこがれていました。
しかしこの本を読んで、想像すること、何かを生み出すこと、考えることまでが
魔女になるための修行の一つで、とても大切なのだなと感動しました。
また、主人公の女の子は私と重なる「静か」なところがあって、
共感できることもいっぱいありました。
今まで読んだ本の中で一番お気に入りの本です。

ももえ

『よろしくパンダ広告社』 を読んで

主人公が書く一行日記が、その日1日をおもしろく書いていて

笑ってしまった。でもその通りだと思った。

キャッチコピーの奥深さを実感しました。

ももえ

『よろしくパンダ広告社』 を読んで

いつもCMのことをよく考えたことがなかったけれど、
広告社の人たちががんばっていることがわかって
たいへんな仕事なんだなと思った。

ひまり

『よろしくパンダ広告社』　を読んで

パンダ広告社の人たちはランドセルをテーマに、CM を作っていたので
すごいです。私だったら、ランドセルをテーマにしても、いい CM は
作れないと思います。特に、本田パンダがやっていたキャッチコピーが
むずかしいと思います。私も一回キャッチコピーを考えてみたいです。
はじめての CM だったのに、あそこまで上手な CM を作っていたので、
すごいと思いました。千田社長はずっと笹の葉おせんべいを食べていて、
少ししか仕事をしていなかったので、社長でいいのかな？と思いました。
私も笹の葉おせんべいを食べてみたいです。

なつき

『よろしくパンダ広告社』 を読んで

私はこの本を読んで、千田社長が自分でおかしを作っていると
知ったときやすごくダジャレを連発してあきれたことなどは、
主人公の本田パンダと同じ心境になりました。
また本田パンダの１行日記も、とても面白いと思いました。

かな

『よろしくパンダ広告社』 を読んで

自分の弱みを強さに変えるために、お互いを信じながら
助け合っていくことは、大事だと知った。
所々にかわいい絵があって、また文章が読みやすい感じで
書かれていて、読んでいて楽しかった。

たくま

『よろしくパンダ広告社』 を読んで

私はこの本を読んでとてもおもしろいと思い、いい本だと思いました。
社長がすごくいい人だったし、最後の「ワタシンピック」も
素敵な終わり方だったと思いました。

ななえ

『夏に降る雪』 を読んで

「あきらめなかったら、その先に必ず光はある」

この言葉が心にのこりました。

目立つのがきらいな大河が、転校した学校で演げきをはじめることに！

いじめられているつばさとみんなを元気にできる隼人と一緒に少しずつ自信が！

ひまり

『夏に降る雪』　を読んで

私は ”夏に降る雪 ”を読んで、主人公やその仲間たちが
劇を練習するときの気持ちがよくわかりました。
なぜかというと私も歴史の劇をしていて、昔の人のしゃべり方などが
今と違い、表現がとても難しいと知っているからです。
でも、それを乗り越えて劇を作り上げていくところでは、
自分が劇を練習している気分になりました。

かな

『トクベツな日』　を読んで

この本は一章せつごとに目線が他の登場人物に変わるので
面白いと思いました。私は、いつも元気いっぱいで笑顔の人は
悩みなんてないのじゃないかと思っていたけれど、
もしかすると、この本の登場人物みたいに悩みなんてないっていう
顔をしているだけなのかもしれないとこの本を読んで思いました。

かな

『トクベツな日』　を読んで

四人それぞれの視点から見た物語で、とても面白く、とても好きな本。

皆、見せたい自分と見せたくない自分がいる。

そういうところを隠したり、隠せなかったり、と悩みながら

大きくなっていけばいいんだなぁと思った。

たくま

『トクベツな日』　を読んで

自分の学校生活や自分のクラスの友達と似ている場面が
たくさんあり、おもしろくて、読みやすかったです。
みんな、いろいろななやみをかかえながら、
がんばっているんだなと私も前向きになれました。
これから、私にも「トクベツな日」がたくさんあると、うれしいです。

ゆき

『飛ぶための百歩』 を読んで

目が見えない子も、いろいろな感覚を使ってものを見ていることが
よく分かりました。目が見える人よりも鼻や耳、心でたくさん感じていて、
目が見える私でさえもその感覚を身につけたいと憧れるほどでした。
逆に自分の目で見ることができないルーチェは、どれだけ憧れても
治療をしても、お金を払っても目で見ることはできません。
なのに、ルーチェがそれについて自分を恨んで、憐れんでいないことに
驚きました。それよりも他人からの目線の方が嫌なことに驚きました。
物語の最後には、盲導犬が登場します。
目が見えない人にとって、盲導犬は精神的な面でも
目が見えない人を支えてくれることがひしひしと伝わってきました。

ももえ

『貸出禁止の本をすくえ！』　を読んで

私は、ピルキーさんの「図書室や図書館はいろんな種類の本を置き、
みんなが読めるようにすることが大切だ」という言葉に共感した。
エイミー・アンが自分の意見を口に出せるようになったのは、
ピルキーさんからのプレゼントで勇気づけられたからだと思う。

あんな

『貸出禁止の本をすくえ!』　を読んで

私はこの本を読んで、スペンサーさんがくだらない理由で本を
貸し出し禁止にするので、もし私が好きな本を貸し出し禁止にされたら、
とても耐えられないと思いました。
でも、スペンサーさんにとって、貸し出し禁止にするのは
子どものためを思ってしたことだと思うので、
私のまわりにもそういう人がいるかもしれないと思いました。

かな

『きつねの橋』 を読んで

私はこの話を読んで、ちょっと不思議な昔の話だけど、
おもしろいと思いました。私は最初はきつねの葉月は
人をだましている悪いやつだと思っていたけれど、
話を読み進めるうちに、だんだんそうではないような
気がしてきて、続きがとても楽しみになりました。

かな

『きつねの橋』　を読んで

空想の世界の物語だが、僕の知っている京都の名所や
歴史的人物が、所々に出てきてとても面白かった。
自分と違う世界のことを、
知りたい分かりたいと思って受け入れていく。
そして、その気持ちが伝わって、自分も受け入れてもらう。
そういうのっていいな、と思った。

たくま

『あした、また学校で』 を読んで

学校はだれのものか。

学校はもちろん子どもの場所であるけれど、加えて様々な価値観を持った先生や保護者、地域の人とみんなが向き合える場所だと思う。

学校は皆の協力、理解があって成り立っている場所。

辛かったら誰かに頼りたい。僕は学校が好きだ。

たくま

『となりのアブダラくん』 を読んで

私はこの本を読んで、アブダラ君は優しくて勇気があると思いました。
理由は、もし私がアブダラ君だったら、妹のために日本に
かけつけるなんてしないと思うし、もししても、
自分とは違う言葉を話す人たちの中に
一人で入っていくなんてとてもこわいと思うからです。

かな

『となりのアブダラくん』　を読んで

私のクラスにもハーフの子はいます。でも、だれもいじめたりしません。
それはきっとハーフの子がハーフじゃない子とそんなにかわらないから。
でも、アブデゥは見た目から食べる物、話す言葉までちがいます。
それにイスラム教徒。だから、いじめられていたんだと思います。
私にとってはそんな理由…。
でも、6－3の人からしたら「いじめるほどの理由」なのかもしれません。
この本を読んで、ハーフの子をいじめちゃいけないと改めて思いました。

あんな

『となりのアブダラくん』　を読んで

知らないから、こわい。知らないことは攻撃してしまうことがある。
ならば知ればいい、とアブダラ君をわかってもらおうと行動した
主人公の勇気はすごい。
戦争も同じようなことかなと思う。お互いをもっと知ろうとし合えば、
世界は変わるのではないかと思う。

たくま

『図書館からの冒険』 を読んで

私は図書館からの冒険を読んで、黒い怪物が
もとは島の人だったということを知った時はすごくびっくりしました。
また、なんで甘いにおいがするのかも不思議に思いました。
最後に主人公の大おじさんの敬ニ郎さんと、シバノザキ島の西の屋敷に
住んでいるミレイさんの仲がなおってよかったと思いました。

かな